

ひじりの声 上田 藤市郎

過ぎ去った日々を振り返り、来たるべき未来に夢や希望を思い描くことで、日々の生活が確かなものとなるのだが、かつてとは大きく異なり、世相の変化が速すぎてしかもあまりにも鮮明に見えすぎる時代に生きることになっている。インターネットの影響はいうまでもないが、私たち自身の「感性」が大きく変化してしまっているのではないかと思われる。戦争、残酷な殺人や児童虐待、金銭収奪を強要する組織、収賄を隠ぺいする国会議員、人権侵害を続ける国家、抑止できない地球温暖化など、課題が多すぎて、私たちは事象を冷静に判断する思考時間を奪われてしまっている。私たちは、どんな些末な事象に対しても、少なくとも、「是非」を明確にして行動したのである。しかし、情報の洪水がそれを許さない。つまり、画面に流れるテロップを見つめるだけの、判断しない人間となってしまうている。同情したり、憤慨したりする心の動きが鈍くなつていき、迫り来る地球の危機にも無頓着になりつつある。情報の量と速度にふりまわされずに、その質と意義を吟味して、自分自身が得心する判断を下して行動するようにしたい。「無理が通れば道理引つ込む」の譬を黙認せず、澄んだ眼で、生きる知恵を探り当てながら日々を送りたいものである。

「大洲の旅」に参加して

高島藤樹会理事 今城克啓

中江藤樹先生が大洲藩に在籍されていた約四百年前から、高島市と大洲市は、文化・教育・産業などの交流が続ぎ、強い絆で結ばれていると聞いていました。

このため、その交流のメイン行事となつていきます「大洲の旅」には、いつかは参加したいという憧れのよくな気持ちを抱いてきましたが、このたび「大洲の旅」がようやく再開され、初めての参加を叶えることができました。

絶好の行楽日和に恵まれて出発した琵琶湖の風景は、普段にも増して美しく見え、心を洗われる旅がすでに始まっている実感が湧いてきました。バスの運転とガイドの方のお話も心地良く、長い道のりではありましたが、快適に道中の風景を楽しみながら、愛媛県伊予郡の坂村真民記念館に到着することができました。

記念館では、毎日午前三時に座禅をされ、妻への恩返しにの想いで詩を書き続けられた坂村真民先生の生きた方に頭が下がるとともに、樺（ブナ）を愛でる詩も書かれていたことが嬉しく、高島のブナの森を改めて思いました。

さらに西へ旅を続け、ようやく大洲に到着した最初の夜は、大洲藤樹会の久保田会長はじめ五名の役員の方からの温かい歓迎に、旅情とも相

まつて感動しました。会員の方々によるバンドと歌の披露もあった楽しい交流会は忘れられない夜になりました。

二日目は、大洲藤樹会の三名の役員の方が、藤樹先生ゆかりの地を中心に、朝から夕方まで大洲市を案内してくださいました。大洲市巡りでは、藤樹先生にまつわる史跡の多さに驚き、江戸時代の雰囲気の色濃く感じました。

また、大洲小学校と青柳小学校の校訓が同じ「良知に生きる」であることや、教育委員会の中にも大洲藤樹会が置かれていること、さらには大洲高校での教育も藤樹先生と深くつながっていると聞いて、藤樹先生の教えが現在進行形で教育に生きていることを知りました。大洲藤樹会の方々には、普通の旅行では聞けない奥深いお話をいただき、多くの史跡をご案内いただいたことに深く感謝しています。

二日目になると、ご参加の皆様とさらに打ち解けることができ、懇親会などで一層人間関係が深まったと思います。



至徳堂（藤樹先生の居宅跡）前で

帰路についた三日目は、藤樹先生の一弟子、熊沢蕃山が藩主の池田公に学問を教え、池田公が建てられた、岡山県備前市の「旧閑谷学校」を見学しました。

国宝の史跡ではありますが、中では中学生が授業を受けていました。このような本物の木造の建物と静かな環境で学ぶ機会は、現代では特に貴重なものだと思います。

充実したすべての行程を終えて無事高島に帰り、「大洲の旅」は大成功に終わりました。

大変な段取りをされ、これだけの充実した旅をやり抜かれた田中会長には、改めて頭が下がるばかりです。また、この三日間の旅で、ご参加の皆様の心配りや行いに接し、藤樹先生の「孝」を生きた形で学ぶことができました。

この旅でいただきました大洲市のつながりも、ご参加の皆様とのつながりも、これから一層大切にしてきたいと思えます。

「大洲の旅」でお世話になりました大洲藤樹会の皆様や田中会長そしてご参加された皆様、本当にありがとうございました。ありがとうございました。



大洲城の前にて